

お金の価値

兵庫県・川西市立東谷中学校 3年 向山 佳奈

「最初に教えるべきなのはお金の『価値』だと思います。つまり何が買えるかよりもそのお金はだれがどうして得たものなのかを伝え、服を着たり、食事したりできるのは、働いたおかげだと教えてほしいのです。」これは、母が切り取って持っている新聞の投稿欄の記事です。この記事は、おこづかいのことで相談された投稿者がおこづかいのことよりも先にお金の価値を伝えてほしいという内容でした。

私は一人っ子なので、周りから何でも買ってもらえると思われがちですが、そうでもなく幼い頃からどちらかというど厳しかったと思います。まず、欲しい物があると理由を聞かれ、親が納得したら買ってもらえました。簡単に流行りの物は買ってもらえなかったような気がします。今、おこづかいはもらっていません。お金が必要な時にもらい、買った物を報告して余ったお金は返金しています。その時に、使ったお金を計算して残高をあわせています。これは今時の中学生ではないかもしれませんが友達に言うときびっくりされるかもしれません。でも私は特にいやだとか、息苦しいとかは余り感じていません。必要な物はきちんと買ってもらえるし、やりたいことにもお金を出してもらっています。ただ、特に厳しかったことは買ってもらった物を粗末にしたり、おけいごとやお金で得ているものに対して、いい加減なことをすると物心ついた頃から大変厳しくおこられたことです。決まって言われる言葉が

「お金は勝手にふってこないねんで。お父さんが一生懸命働いてもらっているお金やから、そんなことしたらあかんよ。」

でした。

お金は働いたらもらえるものだと頭の中で理解していたことが本当に身にしみて感じたのが、中学2年生の時に体験した「トライやる・ウィーク」でした。5日間、作業所に行って仕事を体験するという内容でした。作業所の人はやさ

しいし、友達も一緒だし、仕事内容も難しいものではありませんでしたが、なぜか学校で勉強するよりも疲れました。でも父は、毎日朝から夜遅くまで厳しい環境の中で働いています。体がしんどくても簡単に休むわけにはいきません。家族のためにお金を稼ぐことがどれだけ大変なのかということを感じさせられた5日間でした。

母は自分が子供の頃よりも、簡単に欲しい物が手に入る時代だなあと考えているらしいです。「みんな持っているといったら、ほんまにみんなが持っているもんなあ。」と笑いながら言います。自分のやり方が厳しいかと思ったこともあったそうです。でもそんな時に目にしたのがあの新聞記事で、その内容を読んで安心したそうです。だから今も、大切に記事を持っています。

硬貨1枚、お札1枚持ってみると軽く、使うのも簡単です。でもそんな硬貨1枚、お札1枚稼ぐことが、どんなに大変か、だからこそお金で得た物を粗末にしてはいけない、無駄づかいをしてはいけない、お金の大切さを幼い頃から教え続けられてきたことや、「トライやる・ウィーク」の体験で学びました。もし、欲しい物をすぐにもらえていたら、きっと当たり前のようにお金はあるとかん違いして、お金のありがたさや価値を今でも想^{おも}うことができなかつたかもしれません。

親は私が高校生になったら、おこづかいを渡そうと思っているそうです。その時はきちんとおこづかい帳をつけて、無駄づかいをしないようにしていきたいと思います。そして大人になっていつか自分で、お金を稼ぐようになっても教えてもらってきたお金の価値を忘れないように、無駄づかいをしないようにしていきたいです。いつか私に家族ができれば、家計簿をつけるのはもちろんのことですが、私が幼い頃から教えてもらってきたお金の価値を子供達に伝えていけたらなあと思います。

